

11. 堂山城跡

どうやまじょうあと

所在地：吉田郡永平寺町谷口

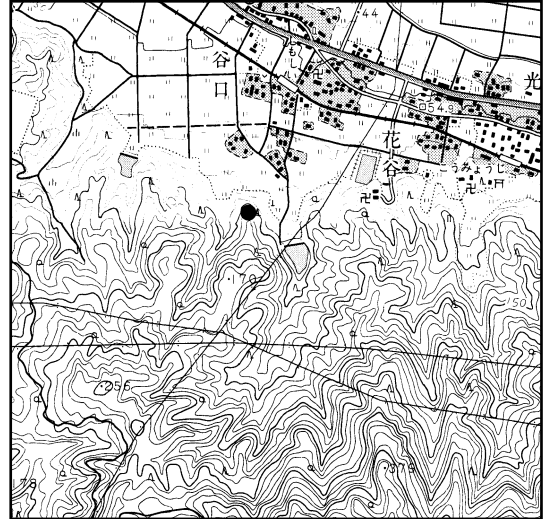
調査原因：中部縦貫自動車道建設事業

調査期間：平成 23 年 7 月 1 日～11 月 30 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：930 m²

時代：古墳時代・中世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 堂山城跡は、越前中央山地の北麓、現在の永平寺町谷口集落の南西にある尾根の上にあります。試掘調査の結果、古墳の周溝を改変したと思われる堀跡が確認できました。中部縦貫自動車道が建設されると、遺跡は破壊されてしまいます。このため、中世の山城跡と古墳を記録保存を目的として発掘調査を行いました。

遺構 遺構としては、堀（古墳周溝）1、古墳墳丘1、土坑4、溝6を確認することができました。堀はもともと古墳の周溝であった溝を改変して構築されていました。山城へと続く南側は岩盤層を掘りぬいて、壁面が垂直に近い傾斜の箱堀状につくられていました。

この堀の造成に伴い、古墳墳丘は大きく削られていました。土坑のうち1基は古墳墳丘の中央にあり、古墳の埋葬施設と思われましたが、この削平のため残存している部分は非常に薄く、不明瞭でした。墳丘の周りには3条の浅いテラス状の溝が前方後円形にめぐっており、もともとは前方後円墳であった可能性が高いものと判断されます。古墳の全長は約20mです。

残りの土坑には、内部に炭化物が多く含まれるものがあり、山城に関連して狼煙をあげるために利用していた可能性があります。

遺物 古墳に伴う遺物としては、古墳周溝の埋土から土師器壺片が出土しています。小片ではありますが、おそらく5世紀以前のものと考えられます。

山城に伴う遺物としては土師質皿、白磁皿が出土しています。出土数は少ないですが、13世紀のものがありますので、山城構築の開始時期を考える上で重要です。

また、これらの遺物以外には、古代の須恵器も出土していますが、遺構は確認されていません。

まとめ 古墳については、中世山城構築に伴い、大きく改変されており詳細不明な点が多いですが、今後周辺に存在する古墳群と比較検討する必要性があります。

山城に関しては出土遺物からも構築時期がおおむね13世紀以降と推定され、少なくとも戦国時代以前に構築されていたことがほぼ確実であると考えられます。 (宮崎 認)